

第 176 号

発行日：2014年5月1日
発行人：神 立 秀 明
〒950-2172 新潟市西区内野上新町11810番地3
TEL 代表(025)264-5000
FAX(025)261-4430
在宅ケアセンターゆうばえ内



夕映えの会

住民の声

目は口ほどに物を言う お客様の安心をささぐって



時計・宝飾・
メガネの堀井
代表
堀井 武久

昭和22年、父が創業し現在、私と息子が引き継いでいます。ここ内野の稲荷町は、かつては最も栄えた中央商店街です。旧農林省の出先が近くにあったことと、稲荷神社のおかげでしょうか。しかし後継者問題などで、いくつものお店が閉じました。商工会役員の頃、寂しくなる一方の内野町に危機感を持った私たちは、町おこしのコンサルタントをお呼びし「診断」と「アドバイス」をいただきます。それによると、町は暗闇になる一歩手前、時間にすれば午後4時頃とのこと。ショックでしたが、「今ならまだ間に合う」とのことでした。それぞれのお店が努力と合わせ、郊外に進出する大規模小売店の規制は何とでも必要だと確信しています。私もそれでこそ息子にバトンを手渡せると思っています。時計の製造で名高いスイスでは時

計職人は特別なエリート職とされてきたと聞きます。「時計職人になれないなら医者にもなるか」スイスではこんな話もあるほど。時間は誰にでも平等にあります。でも正確な時間を知らなければ、意味がありません。お使いになっっている時計を大事にしていただきたいと思えます。私どものお店では、修理できるものとことん修理することを心がけています。

さて「目は口ほどに物を言う」という諺、目は心の窓という意味でしょう。眼球は大脳の突出した部分、感情や体調の変化が一番に現れます。また目はデリケートな割に、大変順応性があります。見えにくくなっても見ようとします。しかしこれは結局、心身にストレスを与えていることです。人間の感覚の中で、視覚は最初の情報です。「最近見えにくくなった」と感じられたら、我慢せずお気軽にご来店いただきたいと思います。見える範囲が狭くなる、視野狭窄という病気をもちの方もいらつしゃいました。さっそく眼科への受診をお勧めしました。

視力は年齢とともに衰え変化するものです。一度作ったからと我慢するのは決して目にも体にも良いことではありません。メガネを生活スタイルの中で使い分けることが大事です。できれば遠くを見る際使うもの、

近くを見る際に使うもの、二種類を持つことをお勧めします。

「よく見えて世間が変わったようー」良く合ったメガネで視力矯正したお客さんから感嘆の声が上がり、ます。物がハッキリと見えることは、高齢期を生きる上でとても大事なことです。
(内野町七番町在住)

2014 5 イベントの お知らせ

■10日(土) いっぺこと歌おいね 川崎和幸様

■16日(金) 新舞踊と三味線 「すみれ会」の皆様

■19日(月) 語り部 「あねさの会」の皆様

■24日(土) 民謡 「梅芳会」の皆様

■30日(金) お抹茶を頂く会 佐々木紀美様他

とき

午後2時30分より

※お抹茶を頂く会は

午後3時15分より

ところ

ケアセンター「ゆうばえ」

デイサービスセンター

地域の皆様のご来所をお待ちしています。
「一緒に楽しみましょう。」

小規模多機能型居宅介護施設 ゆうばえの家

竣工祝賀会盛況に 4月26日 西コミセン

安心して住み続けられる

町づくりの新たな一歩

新潟市長（西区長代理）、内野・西内野コミ協内野・西内野民生委員協議会、自治会など9団体のご来賓が出席のもと、小規模多機能型居宅介護施設「ゆうばえの家」の竣工祝賀会が開催されました。

小規模多機能型居宅介護施設は、「通い」を中心に「宿泊」や「訪問」サービスを組み合わせる住み慣れた地域で暮らし続けるためのサービスを提供します。

翌27日、28日開催された内覧会には、地元新中浜や五十嵐中島からたくさんの方々が見学に訪れました。夕映えの会ボランティアの佐々木紀美さんからお抹茶のおもてなしがありました。



祝賀会に先立って行われたテープカット

ご来賓の皆様からのご祝辞



真島 幸平様
(西区長)

医療・介護の連携とともに地域力が大事。町づくりに「ゆうばえの家」が寄与できることを期待します。(市長メッセージ)



猪爪 衛様
(西内野コミ協
会長)

介護の形が変わっても「長生きしたい、健康に生きたい」は住民の願い。「ゆうばえの家」は地元住民の大きな安心につながります。



木戸 利秋様
(日本福祉大学
教授・夕映えの
会顧問)

小規模多機能型居宅介護施設「ゆうばえの家」は地域密着型サービスの拠点。その中身を内野・西内野の中で語り合い深め合って、草の根の活動を展開することを夕映えのみなさんに期待します。



神立秀明会長
(夕映えの会)



高橋常彦理事長
(ゆうえい会)

皆さまの「人生の夕映えの時」が輝くように今後も力を尽くします。ご支援をお願いします。



井口真紀管理者
(ゆうばえの家)

地域とつながって在宅の皆さんを支援させていただきます。



「ゆうばえの家」スタッフのみなさん

「笑顔」と「ありがとう」を合言葉に！

夕映えの会 第22回総会開催 4月27日

総会に先立って行われたゆうえい会専門職からの発表。小規模多機能型居宅介護施設の役割は「地域で暮らし続ける方への支援施設」と分かりやすく説明するゆうばえの家管理者井口真紀さん。(写真右) お出かけデイを実践、利用者の笑顔が励みと語るデイサービスゆうばえの河上敦子さん。



昨年結成 20 周年を祝い、新しいスタート台に立った夕映えの会の総会。医療と介護の仕組みが大きな転換点に立たされている中で開かれました。総会では、必要な医療や介護が切れ目なく誰にも保障される「無差別・平等の地域包括ケア」を進めることを満場一致で確認。配食・生活支援活動のほか、まちづくりの諸課題をいっそうすすめることを決定しました。また活動をすすめる上で懸案だった「専従」配置について、久住芳保さん(五十嵐西)を決定しました。配食活動などで活動の改善をすすめます。



第8回 ああ スポーツ人生！ 設計ミス？

五十嵐中島 計良 伸 正

「6・3制 野球ばかりがうまくなり」の風潮に乗って、小学生時代は野球少年でした。誰もが貧しかったから、母の縫ってくれたボールやグラブで、学校から帰ると、毎日三角ベースの野球をしていました。結構うまくいった、筈です??? 父が出征して、小2のときに、東京から祖父父母のいる新発田に疎開し、終戦後もそのまま住み続けました。

疎開当時は、いじめられましたよ。「東京っ子」ということで、登校途中、上級生からずっと小突かれ続けました。でも「親を悲しませてはいけない」と思い、絶対に親や先生には話しません

でした。すぐに終戦、野球が盛んになり、隣のチームと試合をしたりするようになると、私はいつの間にか欠かせない戦力になっていました。これで仲良しになりいじめ解消。うまく行きました。

当時、新発田球場が、現在の自衛隊駐屯地の近くにありました。今では信じられないのですが、小4のとき、阪神・巨人戦がこのオンボロ球場にやってきました。別当、土井垣、藤村、金田(正泰)等…。金田がホームランを打ちました。阪神ファンなので、巨人の選手は覚えていません。阪神の勝利を見て、

ますます阪神にのめり込みました。77歳の現在まで…。

新潟に転居して、中学入学。もちろん、野球部に入りました。ところが、私がスコアブックをつけられるため、1年生にしてベンチ入り、監督が脇から離しません。プレイがたくてたまらないのに…。「2年生になれば」と期待していたのですが、状況は変わらず。「オレの方がうまいのになあ」と思いつつ、諦めきれずにいました。

でも、一大決心をしました。「身長が低くても選手になれる種目をやろう」です。バレーボール部に転部しました。当時バレーは9人制です。レシーブ専門のバックのプレイヤーなら身長ハンデイはクリアできます。バレーボールに打ちこむきっかけでした。

高校入学。迷いなくバレー部に入りました。幸か不幸か、この3年間は、母校の黄金時代で

した。このとき以前もこれ以後も、母校は県制覇したことはありません。1年生のときに国体、2年生のときは、県内無敗でインターハイ、国体と全国に歩を進めました。

恐ろしいことに、この全国大会出場が、私の進路を決めてしまいました。もちろん、選手としての限界は承知していましたが、しかし、「素晴らしいチームをつくりたい」という思いに駆られ、国語が好きだったのに、体育教師の道を選びました。理想のチームづくりを目指す指導者として。

職をリタイアしてからも、バレーボール協会やビーチバレー連盟、小学生バレーボール連盟に役員として関わりとうとうこの歳まで来てしまいました。

「この人生 正解か否か?」



クレートーク



健やかに生き、健やかに老いるために

肺炎について(3)

～成人肺炎球菌ワクチンを打ちましょう～

中和内科医院 張 大 全 先生 (内野町)

前回、肺炎予防のいろいろについてお話ししました。今回は成人肺炎球菌ワクチン(ニューモバックスNP®)についてお話しします。

肺炎の原因菌としては最多で、かつ重症化しやすい肺炎球菌(の一部)を予防できるワクチンです。残念ながら全ての肺炎をカバーするわけではなく、CMで西田さんも「ワクチンで防げる肺炎も(・)あります」と微妙な言い方をしています。しかしながら、発症頻度が高く重症化しやすい肺炎が予防できるわけですから、抵抗力が落ちていると考えられる「65歳以上の人」、「65歳未満でも慢性肺疾患、心臓疾患、糖尿病を含む生活習慣病

など基礎疾患のある人」に肺炎球菌ワクチン接種が推奨されています。肺炎予防にとっても優れたワクチンで、実際約半年ごとに肺炎を繰り返していた患者さんが接種後に全く肺炎をおこさなくなった症例を私も数例経験しています。

朗報です!!今まで新潟市では成人肺炎球菌ワクチン接種の公的補助がなく、他の自治体に比べて普及が遅れていました。しかし、この度厚生労働省によって定期接種化が決定しました。本年10月からの予定です。対象の方は公的補助が受けられることとなります。是非接種しましょう。

(おわり)

芦岡さんの

ご飯ですよー!

ゆうばえの里
管理栄養士
芦岡 実可子

【筍のおろし揚げ】

竹の子の独特な香りには胃の働きを活発にし、消化を促進する作用があると言われています。

〈材料〉(4人分)

- ・竹の子水煮 160g
- ・鶏もも挽肉 100g
- ・玉葱 80g
- ・片栗粉 20g
- ・砂糖 小さじ 1/2
- ・塩 小さじ 1/4
- ・醤油 小さじ 1/2
- ・酒 大さじ 1/2
- ・揚げ油 適量

〈作り方〉

①竹の子はよく水気を切り、ミキサーにかけペースト状にする。

②みじん玉葱、鶏挽肉を加えて混ぜ、調味料と片栗粉を加え良く混ぜる。

③1人2個付けで丸め、火が通りやすいように薄型にする。

④油を170℃に熱し、きつね色に揚げる。

※調味料が入っているので揚げやすいです。

連絡先一覧

夕映えの会
お弁当配食については
★配食事業部へ
090-3476-2875



生活支援については
★生活支援部へ
090-1431-7996
お気軽にご連絡ください。

生活支援、配食、運転
ボランティア募集

社会福祉法人ゆうえい会
在宅ケアセンターゆうばえ
(代)025-264-5000

ゆうばえの里
ケアハウス 025-264-5715
ショートステイ 025-264-5730

ゆうばえの家 025-264-0808

★介護のご相談はケアプランへ
025-264-5701

編集後記

この会報が会員の皆様のお手元に届く頃、大方の田んぼには早苗が植えられているでしょう。水を湛え、遠目には黄緑色に見える水田はとても綺麗です。そして夜のとぼりがおりるとカエルたちの大合唱。初夏の天空に朧(おぼろ)の月でも浮かんでいれば、最高です。

過ぎしやすくなった初夏の一夜、カエルの鳴き声を楽しみながらのナイトウォーキングはいかがでしょうか。

(M記)